



月・旬	11			12			1			2			3			4			5			6																				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																		
生育	出芽期						有効分げつ期						無効分げつ期						莖立期						出穂期						登熟期						成熟期					
主な作業	<p> <b>土壌改良材・弾丸の暗渠</b>                      小麥播種適期 → 大麥播種適期                      種子消毒・基肥・播種初期除草剤                      麦踏み                      麦踏み・土入れは土壌が乾いているときに実施                      追肥①                      追肥②                      (中期除草剤)                      麦踏み                      追土肥入②                      畦溝さらえ・排水口の整備                      穂揃い期追肥(小麦のみ)                      赤かび病防除①                      赤かび病防除②                      雑草抜き(カラスノエンドウ他)                      収穫(大麦)                      収穫(小麦)                 </p>																																									
	<p>赤かび粒混入限度は0.0%</p>																																									

## 1. 排水対策(良い麦は排水対策から)

### 麦づくりの基本は排水対策

- ① 播種前に弾丸暗渠、ほ場周囲の明渠施工。
- ② 部分浅耕播種、又は畝立て板装着による畝立て播種。
- ③ 播種後、土入れ作業の後は手作業で溝を切り、排水口につなぐ。
- ④ 雨の後は鍬を持って田んぼを見回り溝さらえ。水たまりを作らない。

## 2. 土壌改良材の施用

○麦類(特に大麦)は酸性に弱いので、  
土壌pHを6.0~6.5に矯正しましょう。  
**ケイカル・ミネラルG・粒状苦土石灰 100~200kg/10a**

## 3. 播種量および播種時期

品 種	播種適期	播種量 (10a当り)	晩播限界	備 考
チクゴイズミ(小麦)	11月15日~30日	6~7kg	12月15日	遅播の場合は播種量を2~3割増やす。
ちくしW2号(小麦)				
はるか二条(大麦)	11月25日~12月5日	7~8kg	12月20日	

※部分浅耕播種、又は畝立てドリル播き、覆土3cmを基本とする。  
※大豆後作は出芽良好となるので、播きすぎない。

## 4. 種子消毒

対象病害虫	農薬名	処理方法
斑葉病・網斑病(大麦) なまぐさ黒穂病	キヒゲンR-2フロアブル	種子1kgに対して、原液20mlをポリ袋に入れて塗沫処理する。又は、ポリ容器に入れてかき混ぜる。
【小麦のみ】 ヤキシロヒムシ(小麦)	クルーザーFS30	種子10kgに対して、薬剤60mlをポリ袋に入れて塗沫処理する。または、ポリ容器等に入れてかき混ぜる。

## 5. 施肥基準(チクゴイズミ・ちくしW2号(小麦)及びはるか二条(大麦))

麦種	前作物	基 肥		追肥		穂揃い期追肥 4月中旬
		チクゴイズミ 444	ちくしW2号 444	追肥Ⅰ 1月中・下旬 チクゴイズミ または NK化成2号	追肥Ⅱ 2月下旬~3月上旬 チクゴイズミ または NK化成2号	
小麦	水 稲 又は麦	45kg	30kg	15kg	【チクゴイズミ】 硫酸10kgを株元施用 または 尿素5kgを赤かび病防除(1回目)液剤に添加して葉面散布 【ちくしW2号】 硫酸25kgを株元施用 または 尿素10kgを赤かび病防除(1回目)5kg、2回目5kg)液剤に添加して葉面散布 【はるか二条】	-
	大豆	20kg				
大麦	水 稲 又は麦	35kg	-	-	-	-
	大豆	20kg				

※土壌分析を行い、適正施肥に努めましょう。  
※稲わらなどの有機物の銚き込みを行いましょう。  
※地力増強のために堆肥を投入する場合は、基肥を2~3割減らしましょう。  
(10a当り堆肥投入量の目安:牛ふん2t、豚ふん0.2t、鶏ふん0.15t)  
※追肥後は、肥効を高めるため速やかに土入れを行いましょう。  
※追肥Ⅱは、生育旺盛で葉色が濃い場合は、減肥しましょう。  
※小麦タンパク含有率向上のため、生育状況に応じて、穂揃い期追肥(4月中旬)を実施しましょう。(大麦の穂揃い期追肥は不要)  
※穂揃い期追肥に尿素を加用して葉面散布を行った場合、小麦の穂やノゲが肥料やけにより褐色に変色し(枯れます)が、麦の品質には影響ありません。

## 6. 雑草防除基準

(10a当り)

	薬剤名	処理時期	使用量	希釈水量	備 考
播種前	ブリグロックスL	播種前 又は 播種後出芽前	600~1000ml	100~150ℓ	展着剤を加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。
	ラウンドアップマックスロード	(雑草茎葉散布)	200~500ml	50~100ℓ	展着剤加用の必要はない。
初期	リベレーターフロアブル	播種後~麦3葉期(リベレーターGは麦2葉期)(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	60~80ml	100ℓ	除草効果を高めるため、播種前の碎土や整地を丁寧に行う。液剤の場合、土壌が乾燥している場合は希釈水量を多くする。いずれの剤もハーモニー抵抗性スズメノテウチに有効。雑草が出芽すると効果があるので播種後早めに散布する。
	リベレーターG		4~5kg	-	
生育中期	トレファンソイド乳剤	生育期(雑草発生前)	200~300ml	100ℓ	ネズミムギやカラスノエンドウ対策として、発生の1月下旬~2月上旬、土入れ後に土壌処理除草剤として散布する。
	トレファンソイド粒剤2.5	但し、収穫45日前まで	4~5kg	-	
	ハーモニーDF(イネ科および広葉)	麦3葉期~節間伸長前まで	5~10g	50~100ℓ	スズメノテウチは5葉期まで。カズノコグサは10g散布で、1~3葉期まで。タネ類に効果あり。一年生及び多年生広葉雑草。
	MCPソーダ塩(広葉のみ)	幼穂形成期(目安:莖立前)但し、収穫45日前まで	300g	100ℓ	ヤエムグラには効果が無い。2月上旬から3月上旬の暖かい日に処理する。
	バサグラン液剤(広葉のみ)	小麦収穫45日前まで(目安:4月上旬まで)大麦収穫90日前まで(目安:2月中旬まで)	100~200ml	70~100ℓ	広葉雑草3~6葉期。(トゲキツネノボタン(4月頃)に黄色の花が咲く広葉雑草)に有効。

※ハーモニー抵抗性スズメノテウチが発生しているほ場では、播種後に初期除草剤を散布し、ハーモニーの一発処理は行わない。  
※ハーモニー75DF水和剤は、野菜や豆類等に薬害を生じるので注意。使用後のタンク及び散布器具は、消石灰500倍液を10分間循環させた後、20分間放置し、排水後清水で洗浄する。  
※MCPソーダ塩はホルモン型。広葉作物に薬害を生じるので注意。使用後のタンク及び散布器具は3回以上洗浄する。

## 7. 赤かび病防除

薬剤、麦種により使用可能な回数、収穫前日数が異なるので注意

薬剤名	希釈倍率	散布量/10a	小麦		大麦	
			出穂後回数	収穫前日数	出穂後回数	収穫前日数
トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	60~150ℓ	2回まで	14日前まで	1回まで	30日前まで
トップジンM粉剤DL	-	4kg	2回まで	14日前まで	1回まで	14日前まで
シルバキュアフロアブル	2,000倍	60~150ℓ	2回まで	7日前まで	2回まで	14日前まで

※希釈倍率 1,000倍...水100ℓ(100g/ml) 2,000倍...水100ℓ(50g/ml)

## ※ 防除適期

### 小麦

1回目: 開花期~開花最盛期 (出穂7~10日後頃\*)

2回目: 1回目の7~10日後

### 大麦

1回目: 蒴殻抽出期 (出穂12~15日後頃\*)

2回目: 1回目の7~10日後(赤かび病の多発が予想される場合)

\*出穂後日数は目安であり、天候により前後するので注意。

## 8. 収穫

- 収穫前にカラスノエンドウ等、異物混入の原因となる雑草を抜き取る。
- 水分25%~20%の間に収穫することが望ましい。(特に大麦は水分25%以下で穂首が8割以上曲がり、穀粒が黄白色になって収穫開始。)
- 製品麦(乾燥調整済み)の仕上水分は11.5%。

## 8. 品種特性

(福岡県における主要農作物の種特性(R4.6月より))

品 種	出穂期月・日	成熟期月・日	稈長cm	穂長cm	穂数本/m <sup>2</sup>	収量kg/10a	耐倒伏性	赤かび病
チクゴイズミ(小麦)	4.12	6.1	88	8.5	537	562	やや強	やや強
ちくしW2号(小麦)	4.11	6.1	84	9.2	482	497	強	やや弱
はるか二条(大麦)	4.7	5.22	79	6.5	654	572	強	中

※播種期は、チクゴイズミ、ちくしW2号: 11月20~25日前後、はるか二条: 11月19日~12月3日。農薬はR4.9月7日現在の登録に基づいて記載しています。

# 超えるぞ! 県平均!!

【JAたがわ麦大豆部会目標】  
大麦: 平均反収300kg

小麦: 平均反収400kg、  
タンパク含量10%  
(ラー麦12%)

